

令和7年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495400671	事業の開始年月日	令和2年7月1日
		指定年月日	令和2年7月1日
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら生田		
所在地	(214 ㊦0039) 神奈川県川崎市多摩区栗谷3-9-6		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名
		定員計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和7年11月28日	評価結果 市町村受理日	令和8年3月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.starts-care.jp/kirara_ikuta/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご利用者様と一緒に調理活動 ・地域交流スペースの一般貸出 (地域住民主催のハンドベルクラブ、はた織り、コーラスクラブ、学生の勉強会、セミナー、高齢者レクリエーションが主に使用中) ・行事やレクリエーション活動(合同でも行なっている) ・階段の飾りつけを楽しみながらの階段昇降リハビリ
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和7年12月17日	評価機関 評価決定日	令和8年2月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 当事業所は、小田急小田原線生田駅南口から徒歩9分ほどの坂道を上がった住宅街に位置している。木造2階建ての2ユニットのグループホームは、「地域に開かれた事業所」の理念に沿って、地域住民との交流の場として1階には地域交流ルームを併設している。法人は全国規模で介護や保育サービスを多数展開している。 【地域に開かれた事業所づくり】 開設準備段階から地域住民に説明会を実施したり、開設時には内覧会などを行って地域に開かれた事業所を目指してきた。地域の方との交流の場として地域交流ルームを併設して地域の方に無償で貸し出しをしている。現在5つのサークルが継続して活動を行うほか、地域の保育園の保護者から貸し出しの問い合わせなどもある。利用者也歌やハンドベルのサークル活動に参加して地域の方との交流を楽しんでいる。 【利用者也参加をする手作りの食事作り】 各利用者のできることや得意なことを継続して活かせるように、支援している。毎日の食事作りを出来る範囲で一緒に行っている。入居前には行えなくなっていた家事や、調理を職員と一緒にすることで再び行えるようになり、家族も驚いている。包丁を使い野菜を切ったり、フライパンで炒め物をしてくれる利用者もいて職員の手助けになっている。また以前から作っていたぬか漬けを作る方もおり、事業所の中庭で採れた夏野菜を漬けて食卓に上げる事もある。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームきらら生田
ユニット名	1階ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		○	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
		○	3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	グループホームきらら生田
ユニット名	2階ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼や会議で共有。 唱和している	「人の心を大切にして笑顔、安らぎ、喜びを提供する」という企業理念に基づき、職員は、「笑顔で挨拶する」「感謝する気持ちを大切に」「謙虚さを失わない」「相手の立場を尊重する」等の7つの行動指針を日々のケアの柱にしている。また毎年、事業所のスローガンを掲げ、朝のミーティングで唱和している。今年度は「共有の輪を作ろう」「その行動は誰のため」をスローガンとしている。目標達成に向けて、職員は、互いに情報共有を密にし、常に利用者に寄り添う行動を取ることを意識して、ケアに当たっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流スペースを使用している団体との合同イベント実施。 活動の様子も見に行かせていただいている。	開設準備段階から、グループホームに対する理解を得るために地域に向けて説明会を開き、町内会長や民生委員等に意見を聞きながら運営をしてきた。地域住民との交流の場として設けている「地域交流ルーム」を、現在、5つのサークルが継続して使用している。歌やハンドベルのサークル活動日には利用者も参加をして、地域の方との交流を楽しんでいる。また地域の清掃に参加したり、事業所のイベント「津軽三味線の演奏会」に地域の方を招待したりしている。地域情報は運営推進会議の参加者や、地域情報誌「栗谷ニュース」から得ている。	地域に開かれた事業所として「地域交流ルーム」を併設し、地域の方と交流をしています。地域交流を更に進め、事業所が地域の社会資源となるように、現在「地域交流ルーム」でサークル活動をしている方を事業所のボランティアとして受け入れ、行事に参加してもらう事を期待します。またサークル活動を活かし、地域の高齢者の集まる場として「地域カフェ」に繋げる事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	できていない		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員の参加により、情報ももらっている。	運営推進会議は偶数月の平日に開催している。町内会長、民生委員2名～3名、協力医療機関の事務職員、地域包括支援センター職員、家族4～5組、管理者、計画作成担当者がメンバーになっている。訪問マッサージ師が参加する事もあり、多種多様なメンバー構成になっているが、現在、運営推進会議が事業所の運営には結びついていない。	現在、サークル活動をしている方々に運営推進会議への参加を要請し、地域交流ルームに対する意見を伺ったり、ボランティアとして事業所の行事等に参加を打診したりすることを期待します。新たなメンバーを加え、運営推進会議が、様々な意見交換ができる場となることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	できていない	川崎市の高齢者施設関連のプロジェクトで、利用者の自立支援を目指す「かわさき健幸福寿プロジェクト」に今年度は準備不足で参加を見送ったが、毎年の様に参加を視野に入れ、事業所が一丸となり取り組んでいる。また地域包括支援センターや多摩区の社会福祉協議会には管理者が毎月出向き、情報交換などを行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや研修実施	法人本部で役員、品質部が参加をして開催している「身体拘束廃止委員会」でテーマを決め、各事業所に周知している。事業所では、全体会の後に委員会を開催し、テーマに沿った事例を基に、話し合っている。当日参加できなかった職員は回覧される議事録に目を通し、サインをしている。回覧済みの議事録を本社に送っている。研修は研修担当者が担当している。職員は、受講後に研修報告（WEB形式）を本社に提出している。日々のケアで起きがちな不適切な職員の声掛けには、管理者が判断のうえ、個別に注意を促している。向精神薬に頼らないケアを目標に、かかりつけ医と相談しながら減薬に取り組んでいる事例が複数ある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルや会議、研修の実施	虐待防止委員会も「身体拘束廃止委員会」同様に本部の委員会で決めたテーマに沿い、3か月に1回、事業所で開催している。今年度も研修では「不適切チェックリスト」を使い、日常起こりやすい不適切なケアについて学んだ。職員不足による業務負担などが表情に出ているときには、管理者は努めて職員の話を聞く機会を持つようにしている。法人では、職員のストレスチェックの実施や「心の相談室」を設置し、必要な場合は産業医に繋げる仕組みを構築している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の実施		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に実施		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や支援経過への記録、会議での共有している 管理者からスタッフにその都度伝えている。	事業所には、家族との面会等に使用できるファミリールームがある。周囲に気兼ねなく利用者と談笑が出来る為、利用者の誕生祝いや新年の集まりに利用する家族もいる。家族は、直接管理者や職員に相談等ができる関係を築いている。意見箱は設置してあるが、意見や要望が寄せられることはない。「買い物の機会が欲しい」「家事に参加させて欲しい」などの家族からの個別の要望には都度対応している。毎月「生活状況報告シート」で利用者の近況や健康状態、行事予定など事業所からのお知らせを家族に郵送している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映、新年の集まりや	ユニット会議、全体会議にて意見を抽出し、反映させている	毎月職員全体が参加をする全体会（法人の方針や事業所全体の運営や行事等の予定を周知）とケアカンファレンスを兼ねたフロア会議を開催している。会議は夜勤明けや早番の職員が参加しやすいように午前中に行っている。会議では、管理者が中心になり、職員全員に話題を振り、発言する機会を作っている。当日参加ができない職員は、議事録に目を通し、内容を確認している。職員の意見や要望は申し送りノートやタブレットの業務日誌に記入して共有している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々のコミュニケーション	年2回、効果測定を兼ねた個人面談を行っている。職員の目標設定を基に個々の職員の事情や、異動、資格取得の希望等を聞いている。事業所として有給休暇の取得のしやすさや、残業をしないなど就業環境の整備に努めている。また職員休憩室が整備され、オンオフの切り替えができるように配慮されている。永年勤続には勤続3年からお祝い品が、勤続10年には旅行券が支給される。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の実施 研修担当者もいる	法人では、キャリアパス制度を導入し、職員各々のキャリアやスキルに合わせた研修を受講できる体制が整っている。事業所に研修担当職員を置き、担当者が毎年度の計画を立てている。法人の研修計画に基づき、法定研修に加え、研修担当職員が研修計画を立案して、研修を実施している。新卒職員には本部で1か月、中途入社の職員には事業所で半日座学研修の後、現場でOJTを実施している。研修後は法人に報告書（WEB形式）を提出している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	できていない		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク時やモニタリングでお気持ちのくみ取りを実施		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面談時にも行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	歯科、理美容、訪問マッサージなどと連携し対応		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事、調理などをできる限り一緒に行っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の意見を取り入れている		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会で行っている	利用者の生活習慣や趣味などをできるだけ継続できるように調理の好きな方にはフライパンで炒め物を作ってもらったり、ぬか床の世話をしてもらっている。率先して、洗濯物の干し畳み等の家事を手伝う方もおり、利用者も戦力になっている。家族と外出した際に本屋に立ち寄り、欲しい本を選んで購入する読書好きな方がいる。家族の許可の下、夕食の時に時折ビールを飲む方もいる。定期的に家族と馴染みの美容院に通う方や、墓参りに出かける方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活ができるよう支援している 職員が介入		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去家族に連絡を取り合ったことはない		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプランに反映している。	利用者の思いや意向は職員と1対1になる入浴時や夜間帯に聞くことが多い。良いことだけではなく、嫌なことも含め本音を吐露することも多々ある。利用者の思いはタブレットの個別のケア記録に入力して職員間で共有している。発語がしにくい方や、思いを伝えるのが苦手な方も、表情の変化を見逃さないように職員はひとり一人のサインをキャッチしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントレクリエーションや家事活動に取り入れている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に残している			
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングシート、ユニット会議内で担当者会議の開催	計画作成担当者がタブレットのケア記録や業務日誌、医療情報を踏まえ毎月モニタリングシートを作成している。それを基に毎月フロア会議を兼ねたケアカンファレンスで利用者の状況を話し合いモニタリングを行い、介護計画の見直しや、作成に繋げている。新規入居の方の介護計画は通常3か月で見直し、その後は短期目標6ヶ月、長期目標1年で見直している。変化があった場合は随時変更している。	前年度の目標達成計画に介護計画に沿った支援と記録の記載を目標にするとあります。介護計画2表にサービス内容の項目が多いため、把握しにくい懸念があります。日常のルーティン業務の部分でできていることは、記入内容を整理するなどして、ケアの共有につながる事を期待します。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者会議や日々の申し送りにて情報共有し更新している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	まだ取り組めていない		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人とのかかわり		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療の実施	利用者全員が協力医療機関（内科）の訪問診療を月2回受診している。医師は、往診時に看護師とかかりつけ薬局の薬剤師を帯同している。週1回、同医療機関の訪問看護師が来所し、利用者の健康管理をしている。診療結果は、協力医療機関からFAX送信される「診療報告書」や、かかりつけ薬局の「居宅療養管理指導記録」、訪問看護の「医療関係記録」をファイリングし、共有のうえ、利用者の健康管理に当たっている。歯科は希望者と契約し、週1回来所し、治療や口腔ケアをしている。歯科医師の「口腔衛生管理指導」に沿って、職員が毎日口腔ケアをしている。家族の希望により、訪問マッサージを受けている利用者がいる。散歩時にマッサージ師に同行してもらい歩行状態を確認してもらっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の実施		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後もMSWとこまめに連絡を取り合い早期退院に努めている		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	マニュアル整備や事前同意書を完備	入居時に重度化した場合の事業所の対応や終末期・看取り時の方針等を説明している。医師が終末期と判断した時点で再度家族の意思確認を行っている。事業所での看取りを希望した場合は、医師、看護師、管理者が家族と話し合い「看取りの同意書」を交わし、看取り介護計画を作成して看取り介護を開始する。現在までに3名の方の看取りの実績がある。毎年看取り研修を実施するほか、看取り介護開始時のケアカンファレンスで再度ケアの方向性などを確認している。看取り後は振り返りとともに、家族に利用者の写真を贈り、思い出話をしながら故人を忍んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フローやマニュアルを掲示		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	フローやマニュアルを掲示	今年度は、5月に川の氾濫による水害と、9月に地震による火災を想定した訓練を、利用者も参加して実施している。1月には夜間想定避難訓練を実施する予定がある。BCP（事業継続計画）を作成して研修や机上訓練をしているが、地域との連携については未実施となっている。備蓄品は米のローリングストックの他、職員分を含め3日分をリストを作成して保管している。また熱源として、カセットコンロ、ボンベ、保温シート類も備えている。さらに災害時には、法人から備蓄品の支援を受けられる体制も整っている。	「地域交流ルーム」があることから、地域の福祉避難場所としての活用なども視野に入れた災害時の協力体制を構築することを期待します。まず運営推進会議で、参加者から地域の防災訓練の情報などを得たり、地域包括支援センターとの連携や地域の消防団への協力要請などについて、話し合われることを期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修の実施	利用者の尊厳や羞恥心に配慮して、トイレ誘導の際の声掛けは耳元で小声にしているが、耳が聞こえ難い方には「あちらにご一緒にください」などと周囲に悟られないように、言葉掛けを工夫している。またフロアで過ごしている利用者の居室に入室する際は、必ず許可を得ている。タブレットやパソコンの使用に際しては、職員番号と個々のパスワードを設定し、管理している。職員間のSNSなども法人の規定に基づき、個人情報の保護や管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ユニット会議、担当者会議などで話し合い実践に繋げている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ユニット会議、担当者会議などで話し合い実践に繋げている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ユニット会議、担当者会議などで話し合い実践に繋げている		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	できるだけ食事の準備に携われるようにしている できる方は作るところから片付けるところまで。	毎日、3食分の献立から調理までを、1階、2階ともに職員が担っている。1週間分の食材を業者に発注して配達してもらい、利用者の体調や希望なども加味して手作りし、提供している。食材が足りない場合には、1階、2階で融通し合うこともある。調理が得意な利用者が、食材を切ったり、炒めたりと職員の手助けをしてくれる。嚥下状態がよくない方には、通常の献立を刻んだり、ミキサーにかけて提供している。クリスマスや、お正月にも市販品に加え、手作りした品を提供して、利用者から喜ばれている。夏には中庭で採れた野菜でぬか漬けを作り、食卓に上がる事もある。おやつレクでホットケーキなどを作って楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは当日スタッフが考えているが偏らないようしている 食事や水分が進まない人は特に注意している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ケアの実施と任意で訪問歯科ともご利用者が個別で契約している。 口腔衛生管理体制加算で歯科から指導頂き実践に取り組んでいる		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	アセスメントし必要であればトイレ誘導している	布パンツを使用して自立してトイレで排泄できる方が4名いる。自立で排泄が可能な方の排泄記録は、トイレに行く気配などを察知してタブレットの入力しているほか、自己申告を基に入力している。日中も全介助でオムツを使用している方が2名、夜間だけオムツを使用している方が1名いる。夜間だけポータブルトイレを利用している方が1名いる。他の利用者はリハビリパンツのみ、またはパッドを併せて使用している。夜間も出来る限り失敗がないように3時間おきにトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師、看護師と連携。 レクも体操など取り入れている		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人一人の時間を大切にしている 入浴時の会話を大切にしている	入浴は週2回、午前中に3名が入っている。入浴を好まない方には時間や対応者を替え促しているが、無理強いはいしないで翌日に変更するなど臨機応変に対応している。同性介助を希望する方には、できるだけ希望に添えるようにしている。湯の入れ替えはひとりずつ、足拭きマットも同じように交換して清潔の保持に努めている。浴室内の暖房機や脱衣場のエアコンでヒートショック対策をしている。季節の柚子湯や菖蒲湯を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡の時間も設けて個別に対応		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必ずダブルチェックと本人の前での名前の呼びかけの実施 その人のところまで行くか、口に入れたかまで確認		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に柔軟に希望に沿っている		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の力をかりたり、散歩にお連れしているが特定のご利用者に限られている。	車いすの方も一緒に、すぐ近くにある公園や諏訪神社に、お花見や初詣、散歩などに出かけているが、事業所周辺は坂が多いため頻度は少ない。現在、事業所に車の運転ができる職員がいないため、家族の面会時に一緒に外出や外食に出かけることを推奨している。併設している「地域交流ルーム」で行う歌やハンドベルのサークル活動に参加して楽しむことが、利用者の社会参加になっている。事業所の中庭で夏野菜や花の植栽をしたり、ウッドデッキやベランダに置かれたプランターの花の水やりをしながら外気浴をすることも楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はいない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話をつながけている 形態を持っている人がいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備を実施	ウッドデッキやベランダに面したリビングの大きな窓からは、明るい陽射しが差し込んでいる。リビングに面した対面式の台所は、職員が調理をしながら見守りがしやすい配置になっている。消火器などは壁に埋め込まれ、廊下も広々とゆとりがあり、車いすの方同士のすれ違いも可能となっている。トイレにはオストメイト機能や、手洗い場所から湯が出る設備がある。各階ともに収納が多く、内装の色も統一感があり、全体的に整理され、スッキリとした印象がある。共有部分の清掃は掃除機かけやモップかけを職員が行っているが、手伝う利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや居室で関係性を深める声掛けサポートを実施		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族やご本人ともできるだけ話して実施	居室は電動ベッド、エアコン、クローゼット、照明器具、壁にハンガーレールが備えてある。防災カーテンは各自持ち込みになっている。利用者は自宅から使い慣れた家具類やテレビ、時計などの生活用品、また家族の写真、絵や書の額などを持ち込み、思い思いの部屋にしている。自作の貼り絵などを飾っている方もいる。利用者は、自室で好きなテレビ番組を見たり、読書をしたりとそれぞれの時間を過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることを継続して行えるように付き添いながら支援している		

目標達成計画

事業所名 7/1-7/26まで58名

作成日 2026年2月17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を 活かし取り組みが 甘い	会議で決めたもの を実践する	その日の会議で 発信し、協力して 行う	6ヶ月
2	36	プライベートに配慮 した声かけが甘い	7/27内で他利用者 に迷惑する声で排泄 やその他プライベート がわかることにならない	見かけをたたくように いく。また、内2人 会議や全体会議で 発信。 忙しいときこそ声かけ	3ヶ月以内
3		研修内容の定着 が甘い	研修後の知識や 技術も定着させる	日々7/27巡回時の ともに前回の研修内容 の振り返りときき、答えられ ないものは解説する	2ヶ月
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。